

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 24 日現在

機関番号：32686

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23710308

研究課題名(和文) マレーシア、サラワク州における在地の社会関係と観光開発に関する研究

研究課題名(英文) Research on articulation of local relationship and tourism in Sarawak, Malaysia

研究代表者

市川 哲 (ICHIKAWA, Tetsu)

立教大学・観光学部・助教

研究者番号：40435540

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円、(間接経費) 600,000円

研究成果の概要(和文)：マレーシア、サラワク州における主にエスニック・ツーリズムに関する観光の特徴を、複数の民族集団や地域集団同士の関係といった、在地の社会関係の中に位置づけて把握することを試みた。特にサラワク州における先住民による手工芸品の制作や、都市部における販売、エキゾチックなイメージを消費する外国人観光客によるそれらの購入や、それとは異なる脈絡での現地の住民による手工芸品の利用といった様々な状況に関する現地調査を行った。さらにこのようにして得た知見を東南アジアの他地域の事例と比較し、その特徴の把握を目指した。

研究成果の概要(英文)：This research project has tried to understand characteristic of tourism in Sarawak which is one of the states of Malaysia. To seize the problem, I have conducted ethnographic field work in Sarawak, Malaysia and researched handicraft making in rural area and its distribution in urban area in Sarawak. I also conducted foreign tourists in Sarawak whose intention to visit this area is to consume exotic image of indigenous peoples in Sarawak. By researching these topics, this project tries to understand the peculiarity of tourism in Sarawak in the context of ethnic and local networks in this area. This project also compares Sarawak case with ethnic tourism in other areas in Southeast Asia.

研究分野：地域研究

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：東南アジア マレーシア サラワク 先住民 華人 エスニック・ツーリズム 観光人類学 接合論

1. 研究開始当初の背景

本研究は、マレーシア、サラワク州における民族集団や地域社会の相互関係の中に、観光という外部社会と顕著な関係を持つ現象が、いかにして接合されるのかに注目することを目的として開始された。そして観光がいかにして在地の社会関係から影響を受けているのか、あるいは逆にいかにして在地の社会関係に影響を与えているのかを、フィールドワークに立脚した調査により明らかにすることを試みるために、本研究を計画した。それにより、サラワク州の観光開発の特徴を、「外部者」と「内部者」という二分法的な関係性の中でのみ捉えるのではなく、複数の民族集団や地域社会といった「内部者」の多様な関係性の中に位置付けて理解することを目指した調査研究がなされた。

2. 研究の目的

東南アジア島嶼部のボルネオ島は地表の大部分を熱帯雨林が覆い、生物多様性が非常に高い一方で、大規模な農地開発や都市化には適さないという特徴がある。このような地理的条件下に置かれるボルネオ島では、林業や石油、天然ガス等の天然資源の開発や、アブラヤシやアカシアのプランテーションが主要な産業となってきた。さらに近年は観光がこの地域の重要な産業となってきている。

ボルネオ島北西部に位置するマレーシア領サラワク州では、観光開発が州政府によって積極的に推進されてきた。サラワク州は1990年代より Visit Sarawak Campaign を開始し、CAN (Culture, Adventure, Nature) を目玉とした観光開発が提唱された。このような流れの中で、同地域では「森林伐採からエコ・ツーリズムへ」という自然環境利用の変化が生じている。またサラワク州の観光開発の中で特徴的なのが、州内の先住民を対象とした観光が重要な位置を占めることである。

このような先住民を観光資源としたサラワク州内部の観光開発は二つのパターンがある。一つは自然の中で生活する人々を訪問するという、エコ・ツーリズムの一環としての観光開発である。もう一つは、先住民が作成する手工芸品販売を中心とする観光開発である。いわばサラワク州の先住民観光には、自然との調和というエコ・ツーリズムを重視する方向性と、エキゾチックな文化を強調するエスニック・ツーリズムを重視する方向性の二つが存在するのである。

このような状況を反映し、サラワクにおける先住民観光を対象とする先行研究の多くは、外国人観光客がサラワクにいかなるイメージを持ち、いかなる期待を持ってサラワクを訪問するのか、そして観光地の住民がそのような観光客にいかにして対応するのかと

いった側面を重視するものが多かった。これはサラワク州に限らず、東南アジアにおける少数民族観光を対象とした観光人類学的な先行研究に共通する研究枠組みであるといえる。いわば外国人観光客が少数民族に対して抱くイメージや、外国人観光客による村落部への訪問が、村落住民の生活様式や自己認識にいかなる影響を与えているのかを重視する研究である。

だが実際にサラワク州で観光業に従事している人々や、観光地として開発されている地域を訪問すると、都市住民と村落部住民、沿岸部と内陸部、河川の上流域と下流域、狩猟採集民と焼畑農耕民、サラワク州住民とマレーシアの他州の出身者等、複数の主体がホストやガイド、土産物の流通や販売業者として観光に関与していることが明らかになる。このような状況では、「外部者」と「内部者」という二分法的な区分だけでサラワク州の観光を十分に把握するのは困難を伴う。

そのため本研究は研究期間内に、(1) サラワク州における在地の社会関係の中にいかにして観光開発が組み込まれているのか、(2) そうした在地の社会関係と観光との相互関係の中で、複数の民族集団がいかなる役割を果たしているのか、(3) それにより、観光開発が在地の社会関係にいかなる影響を与えているのか、(4) 逆に在地の社会関係が観光開発をいかにして特徴づけているのか、という四つの問題を、フィールドワークに基づく実証的な視点から明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

以上の目的意識に従い、本研究の以下の二点を具体的な調査内容とした。(1) 観光客を受け入れる村落において、マレー人や華人、焼畑耕作民や狩猟採集民といった複数の民族集団が、どのような相互関係を構築しているのか。(2) 主に先住民の手工芸品に注目し、原材料の収集に従事する狩猟採集民、作成に従事する焼畑耕作民、流通・販売に従事する華人やマレー人といった異なる民族集団が、いかなる相互関係におかれているのか。そしてマレーシア、サラワク州および周辺地域で調査を行うことにより、内陸部から河川流域を経て沿岸部に至る複数の民族集団や地域社会の相互関係の中に、現代のサラワク州の観光開発を位置づけて理解した。その際に本研究が採用した調査手法は、都市部および先住民村落で観光業に従事する複数の民族集団を対象としたミクロな視点に基づくフィールドワークである。同時に、現地の行政組織や研究機関での文献資料や統計資料を収集・分析する調査も並行して行った。

4. 研究成果

本研究が調査対象としたマレーシア、サラ

ワク州における観光にはマレー人や華人、イバン人やカヤン人、クニャー人、プナン人といった複数の民族集団が関与している。そのため同州における観光開発の特徴を理解するためには、これらの民族集団の相互関係を把握する必要があることを明らかにした。

サラワクでは伝統的に、内陸部の狩猟採集民が外部世界で珍重される動物や樹脂、香木、漢方薬の原料等の森林産物を採取し、河川流域に居住する焼畑耕作民が仲介することで、下流の都市部に居住する華人や沿岸部のマレー人がそれらを購入し、さらに中国や中東、ヨーロッパ等の外部社会にそれらが輸出されるという交易関係が存在した。また外部社会からは、ビーズやネックレス、ゴングといった装飾品や金属製品、食料品、衣服等の工業製品が逆の経路を通じて、沿岸部の都市から河川流域を経て内陸部にもたらされていた。内陸部の狩猟採集民や焼畑耕作民は15世紀から現在に至るまで、このような交易関係に参加することにより、華人やマレー人等の他の民族集団だけでなく、中国や中東、ヨーロッパ等の外部社会の人々と様々な形で交流し続けてきた。

現在のサラワク州における先住民観光や伝統的手工芸品の流通・販売も、このような複数の民族集団や地域社会のメンバーが参与することにより成り立っている。またこれら在地の社会関係を通じて観光客は内陸の先住民村落を訪れ、先住民村落からは伝統的手工芸品が都市部にもたらされ外部社会に向けて販売されているのである。

東南アジアの先住民を対象とした観光人類学的な研究は、比較的小規模なコミュニティで集約的なフィールドワークを行うことにより、ゲストとしての観光客と、ホストとしての地域住民の動的な関係を、ローカルな視点から明らかにするという成果を提供した。だが先行研究の多くは、先住民を取り巻く観光現象を、「外部者」としての観光客と、「内部者」としての先住民という二分法的な枠組みでのみ捉えてしまい、「内部者」の中の多様性を見落としてしまう傾向があった。これに対し本研究は、サラワク州内部の多様な民族集団や地域社会の相互関係から同地域の観光を捉えることにより、先行研究が抱えてきた、「内部者」を均質的に捉える姿勢を相対化させ、観光に従事する多様な主体と在地の社会関係との関わりについて明らかにした。

またサラワク州が位置するボルネオ島を対象とする歴史学的・文化人類学的研究では、沿岸部住民や都市住民、焼畑耕作民や狩猟採集民といった多様な民族集団を取り上げ、それぞれの集団間の社会関係や経済活動、婚姻関係等を明らかにしてきた。だが先行研究の多くは、サラワク州内部のこれら民族集団の相互関係の伝統的な性格を重視する一方で、その現代的な形態を考察する姿勢は希薄であった。これに対し本研究はサラワク州にお

ける伝統的な在地の社会関係と、近年になり州政府によって積極的に促進される観光開発との相互関係を明らかにすることにより、先行研究の成果を発展・継承させる形で現代的な現象を理解し直す成果を上げることが出来た。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 6 件)

①市川哲 2014年 「マレーシア、サラワク州における手工芸品研究のための覚書：観光と民族関係の接合」『立教大学観光学部紀要』(立教大学観光学部)第16号、136-146頁。査読無し。

②市川哲・奈倉京子・小河久志 2013年 「食文化から見る中国系移民の現地化に関する比較民族誌的研究：＜上火・下火＞概念を手掛かりに」『アサヒビール学術研究財団紀要』(アサヒビール学術財団)30:51-57。査読無し。

③市川哲 2011年 「帰郷から観光へーパプアニューギニア華人の訪中経験の変容過程ー」『The Asian Studies for Intellectual Collaboration』(立教大学 AIIC)第1号、148-161頁。査読無し。

④ICHIKAWA Tetsu 2012 “Rebuilding Houses and Graves in their Ancestor’s Village: The Notion and Practice of Papua New Guinean Chinese return to their Qiaoxiang.” In Guangdong Qiaoxiang Cultural Research Center (ed.) *Conference Proceedings of International Symposium on “International Migration and Qiaoxiang Studies.”* Guangdong, China: Wuyi University. pp. 441-447. 査読無し。

⑤ICHIKAWA Tetsu 2012 “A Report on the Joint Research in Sarawak: The possibilities for the Study of the Ethnic Chinese with the Researchers and Scholars of Different Fields.” *Equatorial Biomass Society.* (Center for Southeast Asian Studies of Kyoto University) 2:5-8. 査読無し。

⑥市川哲 2011年 「帰郷から観光へーパプアニューギニア華人の訪中経験の変容過程ー」『The Asian Studies for Intellectual Collaboration』(立教大学 AIIC)第1号、148-161頁。査読無し。

[学会発表] (計 13 件)

①市川哲 2014年 「出自・『混血』・エスニシティー華人性の動態的研究に関する予備的考察」2013年度日本華僑華人学会特別企画「東南アジアの中国系移民と身体政治学」(企画：宮原暁・大阪大学) 於：平戸文化センター (2014年1月25日)

②市川哲 2013年 「ルーツ・シーキングからルーツ・ツーリズムへ—パプアニューギニア華人にとっての僑郷と中国」日本華僑華人学会2013年度例会「新たな僑郷研究の展開：国内・国外からの視点」(企画：川口幸大・東北大学、市川哲・立教大学) 於：立教大学太刀川記念館 (2013年12月8日)

③ICHIKAWA Tetsu 2013 'Commodity Chain and Ethnic Network: Edible bird's Nest Business in Sarawak, Malaysia' At "American Anthropological Association 2013 Annual Meeting" at Chicago Hilton Hotel, Chicago, the USA (20th of November, 2013)

④ICHIKAWA Tetsu 2013 'From Cave to Farm House: Edible Bird's Nest Trade in Contemporary Sarawak, Malaysia' at Japanese Society for Studying Chinese Overseas 10th Annual Meeting, Panel presentation "Anthropological Studies on the Localization of Chinese Food Business in Southeast Asia: Restaurant, Café, and Farm House" Panel convener: SERIZAWA Satohiro (Nara University). at Keio University (17th, November, 2013)

⑤市川哲 2013年 「環境利用と商品連鎖—マレーシア、サラワク州における『ツバメの巣』ビジネスの展開」第7回日本生活学会生活文化研究会、於：女子栄養大学 (2013. 4. 27)

⑥市川哲 2012年 「海外華人研究と僑郷研究の連動の可能性」日本華僑華人学会2012年度研究例会「僑郷華南の現在」(企画：川口幸大・東北大学、市川哲・立教大学)、於：東北大学 (2012. 12. 08)

⑦市川哲 2012年 「先住民との関係を通じたサラワク華人の自然環境利用とコミュニティ形成—ビントゥル省クムナ・ジュラロン水系の事例から」東南アジア学会2012年度関西例会、於：京都大学稲盛会館 (2012. 12. 04)

⑧ ICHIKAWA Tetsu 2012 'Varieties of Chinese Communities in a Riverine System: Business Practice and Ethnic Relationship of Chinese in Bintulu Division, Sarawak.' at International Conference on "Malaysian Chinese in Historical

Context: Interpretation and Assessment." Organized by Institute of Malaysian and Regional Studies, New Era Collage, Selangor, Malaysia. (New Era Collage, Malaysia) (2012. 11. 24).

⑨ICHIKAWA Tetsu 2012 'Rebuilding Houses and Graves in their Ancestor's Village: The Notion and Practice of Papua New Guinean Chinese return to their Qiaoxiang' at International Symposium on "International Migration and Qiaoxiang Studies." At Wuyi University, Guangdong Qiaoxiang Cultural Research Center, Jianmen, The People's Republic of China (2012. 11. 20)

⑩ICHIKAWA Tetsu 2012 'Trend of Tourism in Contemporary Japan' at the 4th Edition of International Congress on Tourism Education "Asian Tourism: Challenges and Opportunities" Organized by Jarisco State Government, Mexico. (at Convention Hall of Sheraton Baganvillas, Puerto Vallarta, Mexico) (2012. 10. 05)

⑪市川哲 2012年 「森林産物と民族関係—先住民との関係を通じたサラワク華人にとっての熱帯雨林」第46回日本文化人類学会分科会「熱帯林と社会—サラワク民族誌研究の可能性」(代表：長谷川悟郎・桜美林大学) 於：広島大学 (2012. 06. 16)

⑫ ICHIKAWA Tetsu 2012 'Subethnic diversification of Chinese community in Sarawak' at "Inaugural Biennial Conference on Malaysian Chinese Studies, 2012" Organized by Centre Malaysian Chinese Studies. (The Convention Hall of Federal Hotel, Kuala Lumpur, Malaysia) (2012. 06. 09)

⑬ICHIKAWA Tetsu 2011 'Ancestors' House, Parents' Cemetery and My Home: Multiple Localization of Papua New Guinean Chinese' at Organized Panel "Reconsidering Locality of Chinese Overseas: Anthropological Studies of Multiple Localization and Re-migration" (Panel Organizer: Tetsu ICHIKAWA, Rikkyo University) at International Society for Studying Chinese Overseas Hong Kong Conference: Chinese Overseas: Culture, Religions and Worldview (The Chinese University of Hong Kong, Hong Kong) (21, June, 2011)

[図書] (計 3 件)

研究者番号：

①市川哲 2012年 「移民にとっての公共圏はどのようにトランスナショナルなのか？—パプアニューギニア華人社会における多言語状況—」 柄木田康之・須藤健一編『多文化的公共圏の重層性—太平洋のフィールドからの視点—』昭和堂、170—188頁。

②市川哲 2012年 「混血から見るグローカリゼーション—パプアニューギニアにおける華人の土着化の諸相—」 須藤健一編『グローカリゼーションとオセアニアの人類学』風響社、97—122頁。

③市川哲 2012年 「移住経験が生み出すコミュニティ、移住経験が変容させるアソシエーション—オーストラリア都市部に居住するパプアニューギニア華人—」 平井京之介編『実践としてのコミュニティ—移動・国家・運動—』京都大学出版会、99—124頁。

〔産業財産権〕

○出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

市川 哲 (ICHIKAWA, Tetsu)
立教大学・観光学部・助教
研究者番号：40435540

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()